

学校名	宮崎県立門川高等学校

活動のテーマ	「私を守る あなたを守る 地域を守る」 ～減災に取り組む主体的な生徒の育成と地域との連携の構築を目指して～
主な教科領域等	教科領域（ 特別活動 ）
活動に参加した児童生徒数	（ 全 学年 397人 ）（複数可）
活動に携わった教員数	50 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	25 人 【保護者・地域住民・その他（行政（門川町役場防災担当））】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成29年 5月 1日 ～ 平成30年 1月31日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

本校が所在する門川町は日向灘に面し、今現在危惧している南海トラフ地震が発生した場合は大きな被害が予想される地域である。そのような地理的条件にある本校は、有事に対する日頃からの意識を高めるとともに門川町の指定避難所としての訓練が必要である。そこで本活動では、次の目的をもって取り組む。

- ① 減災（防災）のための知識・技能の習得を図り、生徒が主体的に活動できる実践力を高める。
- ② 生徒、教職員、自治体、地域住民、保護者等と一体となった避難所運営の研修に取組、地域連携を構築する。
- ③ 減災（防災）教育で取り組んだ内容を生徒の視点でまとめ、それを保護者や門川町内の小中学校、役場等に配布し、減災（防災）教育の啓発を図る。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

平成29年 5月 1日 避難訓練（地震・津波）

5月18日 第1回学校安全連絡協議会（学校、PTA、門川町役場、地域区長）

6月28日 職員研修「救急救命講習」

7月 6日 防災教育講話「災害に対する備えの大切さについて」

講師：自衛隊宮崎地方協力本部長

8月22日 第2回学校安全連絡協議会（学校、PTA、門川町役場、地域区長）

9月14日 「風水害版避難所HUG研修」（学校、地域住民、門川町役場）

11月 1日 みやざきシェイクアウト訓練

11月 9日 防災教育講話「防災（減災）について学ぶ」

講師：宮城県気仙沼市立階上小学校 主幹教諭 畠山 友一 先生

参加者：全校生徒、本校職員、PTA、門川町役場、地域住民、

門川町内小・中学校防災担当者

平成30年 1月11日 避難訓練（地震・火災）

1月26日 生徒会役員防災研修

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。
昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ① 外部講師を招いて講演会を今年度は2回実施することができ、その内の1回は県外から講師を招き、地域と一体となった取組を実践することができた。（助成金の活用）
- ② 学校安全連絡協議会に参加していただく地域住民（区長）の経費を捻出することができた。（助成金の活用）
- ③ 学校行事としての防災教育だけではなく、日常の学習（教科）指導の中で取り組める減災（防災）教育を検討し、平成30年度からの充実に努めることができた。



11月9日 防災教育講話

4) 実践の成果

① 減災(防災)教育活動・プログラムの改善の観点から

- ・ 校内の避難訓練では、授業時間中の訓練から休み時間に地震が発生した場合に変更し、生徒自らが考え、判断し、行動できる訓練に改善した。生徒たちは普段の訓練との違いから戸惑う場面があったが、自助・共助の観点から充実した内容になった。
- ・ HUG研修を地域の方々と合同で実施することで、有事の際の備えや行動等をお互いに交流を深めながら考えることができた。



9月14日 HUG研修

② 児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

- ・ 減災（防災）教育研修を通して、地震・津波・河川氾濫等についての知識が身につき、自ら考え、行動する意識が高まった。
- ・ 生徒会役員を中心に、登校経路の危険箇所や避難場所等を確認し、その内容を全校生徒に周知するなど減災（防災）に対して自主的・積極的・共同的な態度が身についた。
- ・ 共助の観点から地域を知る機会になり、地元を愛する心（気持ち）が育てることができた。



1月26日 生徒会役員防災研修

③ 教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の観点から

- ・ 教師一人一人が減災（防災）に対する意識を高め、避難訓練等を通して組織的・系統的な行動を確認できた。
- ・ PTAと連携して、生徒の備蓄品を確保できた。
- ・ 本校は門川町の避難所になっており、町の防災担当職員及び地域区長と避難所の初動について協議することができた。
- ・ 地域や行政と自助・共助・公助を目的にした「学校安全連絡協議会」を定期的で開催し、各役割を確認するとともに地域連携を深めることができた。



8月22日 第2回学校安全連絡協議会

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- ・ 避難訓練では、職員の担当割り振りを行わず、避難の状況等を確認しながら、機転を利かした自分の動きができるように工夫した。
- ・ 学校行事としての減災（防災）教育だけでなく、教科の学習でも取り組むために、各教科主任と教科の単元で取り組める内容を検討した。次年度からは、教科でも取り組む計画である。
- ・ 地域の減災（防災）力を高めるために、本校でのHUG研修に地域住民にも参加していただき、地域連携の取り組みを実践した。
- ・ 地域区長、行政、PTAと共同で実施している「学校安全連絡協議会」に門川町内の小・中学校の防災担当職員にも参加していただき、校種別の取組を共有するとともに今後の協議会の取組について一歩前進することができた。



1月11日 第2回避難訓練

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- ・ 新設された健康スポーツ系列で、2年次に防災士の資格取得を目指す。この学習の取組を通して、学校及び地域の防災（減災）リーダーの育成に努める。
- ・ 減災（防災）教育を充実させ、成果を上げていくためには、学校、行政、地域住民等との繋がり（連携）が必要であると考え。今後も「学校安全連絡協議会」を定期的で開催し、学校及び地域の減災（防災）力を高めていきたい。
- ・ 現在、「学校安全連絡協議会」の主幹は本校であるが、今後は行政または地域区長に移管し、名称も「学校・地域安全連絡協議会（仮称）」に変更し、持続的な活動になるようにしていきたい。



11月9日 第3回学校安全連絡協議会

生徒会新聞



平成29年 9月号(No.3)

平成29年度高校生防災リーダー養成研修

目的

各高等学校の生徒と教職員を対象に、防災に関わる講座を開催することにより、地域防災において活躍が期待される高校生に関する実践的な態度の育成と意識の高揚を図る。

講義内容

講義Ⅰ【学校での防災教育の重要性】

講義Ⅱ【自然災害発生時の対応及び避難所運営】

演習【母校の避難所運営シミュレーション】

まとめ【学校における取組について】

宮崎県教育委員会

兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH)員

兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH)員

宮崎県教育委員会

● 学校での防災教育の重要性 例 宮城県立石巻西高等学校

東日本大震災時、先生方や生徒が主体的に最大300人の避難住民に対応し、生徒が避難所運営の手伝いを行った。また、学校は避難所(教室)と遺体安置所(体育館)となり学校の中に生と死が共存していた。これにより高校生に対するカウンセリングや、防災教育の見直しと避難所運営の担い手として期待が高まっている。

● 宮崎県内での防災取組

- 延岡工業 校内に地域住民が避難しやすいように、生徒が「避難指示電光掲示板」を作製した
- 日向高校 地域住民や学校近隣の保育園等との「合同避難訓練」を実施し、有事に備えている
- 延岡商業 従来のスリッパから、緊急時に避難しやすい「走りやすく、丈夫なスリッパ」へ変更した。このように有事の際に備えるべく着実にまた的確に変化していっている。

● 自然災害発生時の対応及び避難所運営 **〔重要〕**

- 地震・災害が発生した時、まず、自分の命を守る行動をとる! (自分が生きてないと誰も助けることが出来ません) そして次にとる行動は、避難経路の確認! 安全が確認でき次第即座に避難して絶対に元の場所には戻らない。 (一度家に帰ってしまい津波にのまれて亡くなっている人が多い) 助かるも、また助けるも鬼になれ。
- 避難所運営には学校が避難所指定されていることが多く(避難所指定していない学校も避難所として開設しなければならない)、地域住民は学校に避難してくるので対策をしないといけません。
- 避難所運営委員会の設置並びに本部として、避難所運営委員会、総務班、情報班、物資班、救護班、管理班、を統括し公助の手が届くまで助け合っていく(早くても3日)
- 避難所でのボランティア活動、東北の避難所では、ボランティアと書いた服を着他人のバッグを触ってトラブルがありました。避難所には人手が足りず、猫の手も借りたい程ですが、ボランティアは社会福祉協議会を通して正式に派遣されてきます。しかし、本部が中高生にボランティア要請するのはOK! どの誰か本部も分からない人はNG!

● 母校の避難所運営シミュレーション

- 自分の通う学校が一体何人の避難者を抱えることができるのか? (教室棟の二階踊り場に掲示してあります。)
- 人は、立って半畳(1mx2)座って1畳(2mx2)寝て一坪(3mx2)と言われていて長期避難になると苦しいものがあります。

● 学校における取組みについて

- これから社会において求められていく人材育成をしていく
- 答えのない問題に挑戦して、解を見出し、新たな価値を見出す存在。
- 変化の中から自ら課題を設定し他人と協力し合い答えを出すこと。
- 様々な能力や得意分野、異なるバックグラウンドを持った多様な人。

災害の現実

自助…自分で自分を助ける。

共助…共に助け合う。(声を掛け合う)

公助…公の助け、行政、自衛隊、等(どんなに急いでも3日~1週間は救助は来ません。自助、共助、公助、で乗り切る!!)

まとめ

- ◆ これからの時代に求められる人材になるために
- ◆ 「**ドライバーズ効果**」
脳は、「自分が主体者である」と判断すると活性化する。
「主体的に行動する」

➡ 「気づき」 ➡ 「問題意識」 ➡ 「行動」